



『しまの宝』

第23号 R3.3.4発行

文責：校長 日高 洋子

「子ども県展」で 優良校表彰！

1月に長崎県小・中学校児童生徒美術作品展「子ども県展」において久賀小学校が「版画部門」の優良校として表彰されました。



小学校担任の熱心な指導で、子ども達の作品が輝きを増し、その力を認められた結果です。堂々と校長室に賞状を掲げて、職員、子ども達をねぎらいました。

新聞社インタビュー

前号でもお知らせしましたが、長崎新聞社の俳句を紹介するコーナーで6年生の狩野琉嘉さんがインタビューを受けました。

リモートでのインタビューに少し緊張した様子でしたが、俳句を作るときの注意などを聞かれて、はきはきと答えていました。

2月28日の新聞には紙面の中心に写真付きで掲載されました。



久賀小中学校で伝統的に取り組んでいる俳句作りが、いろいろな人に伝わって、喜んでもらえるのはとても嬉しいことです。琉嘉さんは家族留学で久賀島にきていますが、来年度は久賀中学校に進学予定です。これもからも、感性豊かな俳句を作り続けてほしいと思います。

先生方とお別れ

一年間、中学校の美術科と家庭科の授業でお世話になっていた、山田融利亜先生と、鍋内千恵子先生が3月はじめて勤務が終了となり、全校児童生徒でお別れセレモニーを開きました。

週に1回の授業ですが、久賀中学校の生徒にとっては貴重な時間です。予定していた調理実習が新型コロナウイルス感染症防止のため中止になってしまいましたが、鍋内先生にはマスクやバックを作るなどして、ものづくりの面白さを体験させていただきました。美術の山田先生には、ほぼマンツーマンの指導でじっくり、指導していただきました。ただ、久賀島に来るときは必ずと言っていいほど、大雨や大風、大雪など、天気が本当に悪くて気の毒でした。しかし、最後の日は穏やかで気持ちの良い天気にも恵まれ、見送りに出た児童生徒、職員、誰もがほっとしました。これに懲りずにまた、いらしてください！

お二人の先生が校門を出て、タクシーに乗るまで、全職員・児童生徒で手を振りました。

また、来年お会いしましょう！



iPad を使った授業

来年度実施予定のGIGAスクール事業に先駆けて、久賀小中学校では一人一台のiPad（パソコン）を使って授業を進めています。今回は道徳の授業で使いました。大人に比べて、子ども達はこのような機器を使いこなすのはお手のものです。

iPadに直接書き込んだり、写真を撮ったり、資料を見たりと活用は様々です。



職員も、「とにかく何ができるかやってみよう」と使うことにしています。機器を使うことで、何ができるか、いまだに試行錯誤の段階ですが、子ども達が何の抵抗もなしに、授業でサッと使っている様子を見てみると、右往左往しているのは、大人だけなのかと思ってしまいます。今後、学校でどのような形で浸透するか未知数ですが、子ども達の学習を実のあるものにしていくために、今後も先生方の挑戦は続きます。

道徳授業の中で…

3月3日の中学校の道徳授業で、『良い集団づくりのために何が必要か』を考えさせています。その中で「久賀小中学校のここが好き」を個々に書かせていますので、いくつか紹介をしたいと思います。(学級通信でも担任が紹介しています)

- 一番、授業の感じが好き。笑い合ったり反対意見も出たり、間違ったり悩み合ったりしているところが好き。
- 先生達といっしょに掃除をするのが楽しい。地元の学校だと掃除をしない人とかたくさんいるけど、久賀は生徒だけでなく先生達も授業のように真剣にやっているから。
- 人数が少ないのが良い。その分、相手のことを中途半端じゃなくしっかりわかる。

たくさんの「ここが好き」をあげてもらっていますが、特にこの3点は嬉しいなあ、と思います。

「授業」が好き、ではなく「授業の感じ」が好きというのは、久賀だからできる教育のひとつでもあり、指導する職員の指導力の賜だと思います。授業が「生きている」のだと思います。また、掃除を「授業のように真剣に」やっている、先生方

というのが、子ども達がよく見ているなあ、と感心します。そして、久賀は人数が少ないことを「売り」にしていますが、授業の中で人数が少ないからこそ「相手のことを中途半端じゃなくしっかりわかる」と思っている子ども達を素晴らしいと思います。職員は、生徒が少ないため、丁寧に指導できることを「良さ」と言いがちですが、子ども達は違う視点から「少人数のメリット」を実感しているのです。相手を思いやる、理解することの楽しさや、大切さを学習しているのです。とても素晴らしい子ども達だと思います。そして、授業の最後には、「とにかく久賀が好き」「地域の人から信頼される人になりたい」「みんな仲良く友達の良いところを見つけながら過ごしたい」「先輩達の残したものを守って行きたい」とまとめています。来年度も、しま留学生として、継続してここに残る子ども達がほとんどですが、頼もしく思いました。きっと、来年もこの中学生が久賀小中学校を守って行ってくれるでしょう。なんとも、嬉しい道徳授業の報告でした。

3月の読み聞かせ会

2月に予定されていた3年生の侑都さんの読み聞かせが、朝から船が欠航するなどして、延期されていました。先日やっと実施され、話題の絵本作家ヨシタケシンスケさんの「もうぬげない」「なつみはなんにでもなれる」の2冊を侑都さんが読んでくれました。なんとも、ほのぼのとした内容で、侑都さんの丁寧な読み方に、誰もが本の世界に入っていました。特に、子どもの気持ちを代弁した内容なので、先生方の方がクスリと笑ったり、頭を抱えたりとリアクションがあって楽しい時間でした。読み聞かせの後には、いつも感想を発表するのですが、この日は全員が挙手をして発表しました。内容の入り込みやすさと、侑都さんの読み聞かせの力だと思います。いつか地域の方にも聞いていただきたいです。

